

進路開拓の手引き

～「自分が決める」ことへの応援～



3年 組 番 氏名 ()

目 次

・ 目次	1
・ 「夢が原動力」（中学3年生としての心構え）	2
・ 進路決定に向けて	3
・ 進路選択にあたって	4～6
・ 学習の心がまえ	7～8
・ 進学について	9～14
・ 就職について	15
・ 入学試験について	16～21
・ 公立高等学校の入学試験について　・ 隣接県協定について	
・ 私立高等学校の入学試験について	
・ 学力試験以外の試験について	22～23
・ 学校説明会・体験入学などへの参加を	24

【巻末資料】

- ① 高等学校等就学支援金
- ② 授業料減免制度のお知らせ
- ③ 千葉県から志願できる茨城県の学校・学科
- ④ 千葉県から志願できる埼玉県隣接地域及び高校名
- ⑤ 令和7年度入試資料

第2回進路保護者会 令和7年10月9日（木）予定

「夢が原動力」

◆はじめに

みなさんの可能性は無限大です。そして今、人生という道の「1つの分岐点」に立っています。その分岐はいくつにも分かれており、様々な選択が可能です。

では、どの道を選んで進んでいくのか。誰が選ぶのか。どうやって選ぶのか。どうやったらその道を歩んでいけるのか。考える時期が“今この瞬間”です。

まず、みなさんが自分の意志で進む道を選ぶことです。自分の人生です。自分が生きる道です。人の意見は聞いたり、情報を調べたりするけれども、最終決断は自分自身で下すものです。そこに自分の人生に責任をもって生きるという決意が生まれます。

つぎに、“夢の実現”を見据えて選ぶことです。これから進む道の先に、自分の夢の実現や希望などがないれば、その道がただただ辛く険しいものとなるでしょう。だからこそ、自分が抱く夢や希望につながる道を選び、心の支えや頑張れる源がある道を選んでほしいと思います。

さらに、夢を叶えるための道を選んでいくには、力が必要となってきます。時として人間力、学力、体力、リーダーシップ、課題発見解決能力、論理的思考力、コミュニケーション能力（チームワーク）、表現力、人の気持ちを考える力（想像力）、創造力、情報収集力、PC活用能力など、様々な力が必要になるでしょう。社会はこれらの力をもつ人材を求めています。では、これらの力はどこで身に付けるのでしょうか。学力に限っては、学習塾という選択もありますが、多くは、日々の生活（大半が学校生活）で身に付けていく力になります。自分の夢を勝ち取るためにも、選んだ道を歩む力をつけてほしいと思っています。

そして、その先に、みなさんの夢の実現が待っていることになります。

そうとは言っても、中学校3年生という義務教育修了の年を迎え、希望と不安が入り混じる気持ちを抱いていることでしょう。この先どんな未来が待っているのか。どう進んでいったらよいのか。今何をしておけばよいのか。そんなときに思い浮かべてほしいのは、学校教育目標に掲げている「自律」です。おぐろの森中学校の先生方は、社会に通用する、人として心のある自律した生徒の育成を目指しています。学力を伸ばすためだけにいるのではありません。

今までは、子どもとして家族や大人たちから手厚く守られてきましたが、数年後には（早い人は来年から）大人としてみられることになります。責任ある大人として、社会のために活動し、自力で生き甲斐を見出し、職場や周りの人々からの十分な信頼を継続的に得る、生きる力をしっかりと身につけてほしいと思います。

最後に、これから未来を生きていく皆さんに伝えたいことがあります。それは、○○をやってみたい、○○してみたい、どうして○○なんだろう、などの興味関心を大事にすることです。とある有名な漫画では、「頑張れ!! 人は心が原動力だから 心はどこまでも強くなれる!!」と主人公が熱く伝えています。原動力がなければ、人は動けません。その原動力は、人の心が抱く“夢”だと強く思います。

中学校3年生という通過点をどのように捉えるか。また、これから先の数多くの通過点をどのように捉えるか。そして、自分の人生をどう生きるか。考える時間を大事にしてください。あなたは脚本家であり、主人公です。幸せな人生を送っていくために、自分が主人公のドラマを描いて演じていってもらいたいと思っています。

◆進路決定に向けて◆

中学校卒業後の進路を見てみると、90%以上の人人が高等学校へと進学しています。高等学校へ進学することが当たり前のような感じがしますが、その一方で毎年5万人近くの人が、進学した学校を中退しているという現実があります。そして、そのうちの約4割は1年次で中退をしています。その理由を見てみると、①学校生活・学業不適応 ②進路変更 の2つが多く、次いで③学業不振 となっています。

また、辞めないにしても、辞めたいと思ったことのある生徒も多く、高校1~2年生を対象にしたアンケート調査では「学校を辞めたいと思ったことがある」と答えた生徒が45%もいました。これらの生徒も「学校が合わない」「勉強についていけない」「他にやりたいことがあった」「学校へ行く目的がわからない」などの理由で悩んでいるのです。この悩みや傾向は、学力的にトップといわれる高等学校でも変わりません。これらの問題や悩みは、自分の適性や目的、希望、受験する学校がどのような所かなどをよく考えず、「みんなが行くから」「成績的に丁度よいから」というような気持ちで選択した結果です。そうならないためにも、「なぜ進学するのか」「なぜこの学校に行きたいのか」そして、「進学したら、どのようなことをしていきたいのか」を明確にし、家族の方々とも十分な話し合いを持ってほしいと思っています。だからこそ、“夢”が大事になってくると思います。

◆3年生のみなさんへ

中学校卒業後の進路の希望を決めていますか。希望を実現させるためには、努力が必要です。進学を考えている人は、今まで以上に授業を真剣な態度で受けたり、家庭での学習量を多くしたりしなければなりません。就職を考えている人は、社会に出た際に必要な礼儀やマナーなどを身に付ける必要があります。これらは、自分の努力次第で希望が実現する・しないが決まってしまうのではないかでしょうか。これから、不安になったりイライラしたりすることがあるでしょうが、自分の力を信じて努力を続けてください。きっと、希望は実現されるでしょう。これを乗り切ることで、社会を生きていこうとの大きな力となります。そして、同じ辛さに立ち向かう仲間がいることを忘れないでください。声をかけ合い、励まし合ってこの1年間を過ごしていきましょう。全てに「一生懸命」でそれぞれの志を遂げましょう。

◆保護者の皆様へ

進路とは生徒の人生のことなので「子どもが選んだところならどこでもいいです」などという言葉を耳にすることがあります。進路選択という人生の岐路に立っているとは言っても、まだまだ15歳の子ども達です。大人がある程度の選択肢を用意する必要もあるかもしれません。だからといって、一方的な保護者の意見だけで決定したり、「ここに入らなければだめだ」「○○高校以下は高校ではない」というように、押し付けすぎたりすることはいけないと考えます。もし、保護者や教師の言われるがままに決定をしてしまうと、中学生は自分の人生に対して、どう向き合ったらよいのか分からまま過ごしてしまい、困難に出会った時に自分で解決していく力がない、受け身な人生を歩んでいくことになってしまいます。家族でよく話し合っていただき、お子様が何を希望しているのか、どのような道に進みたいのか、進学してどのような環境でどのようなことを頑張りたいのかを知っていただいた上で、保護者としての意見を伝え、これから旅路を一緒に考えていただけたらと思います。

また、卒業後あえて就職する人や専門学校などで技術や資格を身につける人もいます。「学校の難易度」で頭が一杯になっているお子様に、人生の先輩としてそれぞれのご家庭のお考えで、「上級学校に進学するならば、それはなぜか?」を語ってあげてください。この1年間は、学校・生徒・保護者が一体となって乗り切っていけたらと思っております。ご協力の程よろしくお願ひいたします。

◆進路選択にあたって◆

1. 原 則

中学校は、義務教育の最後の学校であり、誰もが受ける最後の基礎教育です。つまり、中学校を卒業する時には、生徒はそれぞれ自分自身の進むコースを選ばなくてはならず、一生を通じての1つの重要な岐路となるわけです。ただし、この岐路は、人生100年時代においてのたった1つの通過点です。真剣に考えなければならないですが、必要以上に深刻にならないようにすることも大切です。この選択が人生のすべてを決めるわけではないことを強調させていただきます。

「希望通りにいかない=人生失敗」ではありません。

最終的な決定は、本人によって行われなくてはなりません。学校の先生は資料や情報から助言しますが、決定者ではありません。あらゆる角度から十分に検討して、最後は本人の意思で選択することが最も望ましいです。

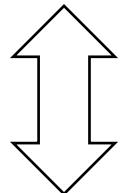
中学校卒業後の進路は大きく分けて、進学と就職があります。就職する人はもちろん、上級学校に進学する人でも、将来は職業に就くはずであり、そのことを考慮し、進学先を選択しなくてはなりません。

また、先にも述べましたが、現在高校生の中退学者が問題になっており、その原因是、高校への不本意な入学からきていると言われています。高校進学は義務ではありません。「とにかく高校へ行けばよい」ではなく、「なぜ、自分は高校へ進学するのか……」、そのなぜ（目的・理由）をしっかり持って進学させていきたいです。

だからこそ、学校としては、生徒自身がすべきことは、自分で責任を持ってするように指導しています。

進路選択において、

「生徒」は主人公



「保護者」と「学校」は
サポーター

2. 志望校決定の際に留意したいこと

① 家庭の考え方を一致させる。

本人と保護者の考えが異なる場合は、将来のことまで考えたお互いの本音を冷静に出し合い、理解し合い、調整を図るなどして最終的に一致させていただきます。

② さらに先のことも十分に考慮する。

高校卒業後、さらに進学を目指すのか、就職する予定なのかを考慮する必要があります。また、職業科や専門学校などを希望する場合は、将来の目標・夢を明確にし、入学後の学習内容や卒業生の進路などをよく調べておくことも大切となります。

③ 周りの評判を気にしすぎない。

周りの意見や評判は参考にはなりますが、あまり気にしすぎることも良くありません。「周りの評判の良い学校」と「自分に合う学校」が必ず一致するわけではありません。根拠のない話には左右されず、生徒自身がしっかり考え、五感で調査し、最も良いと思う進路を選択してください。

④ 必ず学校訪問などを行う。

第1志望だけでなく、受験する全ての学校は事前に訪問してください。出願する時に初めて学校を見た、ということではいけません。受験する学校は、「入学する意志がある学校」です。必ず、学校訪問をするようお願いします。

3. 志望校の決定

10月末の第4回進路希望調査は、最終決定というような気持ちで提出してください。この希望調査とともに秋の三者面談を行います。もちろん、そこに至るまでに生徒と保護者でよく話をしてください。

三者面談を終えて志望校を決定した後、進路希望に変更があれば11月中旬までに新たに進路希望調査を提出します。提出後、やむを得ず希望変更をする場合は、担任に事前に相談してください。

公立高校受検の場合、願書提出後に受検する高校の応募状況を見て志願を変更する（志願変更・希望変更期間）こともできます。生徒は、担任や保護者と事前にその可能性をよく話し合っておく必要があります。

私立高校を、推薦制度を利用して受験を希望する場合は、その条件を中学校と高校との間で確認する「入試相談」を行う学校もあります。そのため、推薦の種類にかかわらず推薦制度を利用しての受験を希望する場合は、「推薦願」の提出をお願いします。「高校との入試相談終了以降は、その高校の受験を変更できない」などということもありますので、担任とよく相談してください。

4. 2校以上受験する場合

2校以上の受験をする場合、以下の点に留意してください。

① 全て、入学して良い学校である。

これが一番大切なことです。第1志望が不合格になった場合は、第2志望以降の合格している学校に入学することになります。この学校なら3年間通学して良い学校だから、受験をします。進路確定の時に悩まないよう、志望校は十分に考慮して選んでください。

② 日程を考える。

同一県内で複数の私立高校に出願する場合、連日の受験となることもあります。試験当日というのは、想像以上に疲れます。生徒の体調も考え、受験日程を考えてください。

③ 手続きの日程を確認する。

一部の私立高校では、入学手続きを公立高校の合格発表まで延期するために、延納金が必要です。入学金や延納金（5万円前後の高校が多い）の納入期限や最終入学手続きの日程は、家庭で必ず確認して下さい。例えば、第2志望の合格発表は第3志望の納入期限より前か後かなどを確認をしておくとミスを防ぐことができます。

④ 公立高校と私立高校の併願について

公立高校を受検するということは、受検する公立高校が第1志望であり、公立高校に合格した場合は、その高校に入学することを原則とします。従って以下の点によく注意する必要があります。

国立高校や私立高校を第1希望とする人は、第1希望の学校が合格した時点で公立高校の受験についての取消手続きを行います。その必要が生じた場合は、速やかに担任に申し出てください。

5. 保護者のみなさまへ

10人の生徒がいれば、10通りの進路選択があります。

一人ひとり別々の進路があり、たくさんの考え方があります。どれが正しくてどれが間違っている、というものではありません。子どもの将来について親子が真剣に考え、努力した結果であるなら、合否はどちらであれ、将来につながる良い選択になると思います。受験生を初めて持つ方も、何回か経験されている方も、次のようなことを心に留められたらいかがでしょうか。

① 客観的に判断しましょう。

性格、興味、関心、行動力、生活力など保護者の方がよく把握されていることを総合的に判断してください。学校の定期試験の結果や実力テストの結果も見て材料の一つにしてください。

② どういう進路を選んでいきたいのか話し合いましょう。

子どもの考えと保護者の考えが一致しないのは当たり前だと思いませんか。はじめは、しっかりと話を聞いてください。そして、なぜそう考えるのか、どうしていったらいいのかを共に考えていくことができれば方向がみえてくると思います。話す時間を意識して持つようにしてください。

保護者として、子どもにどのような生き方をしてほしいか、またどのような人間になってほしいのか、将来の仕事など話す時間をとれる絶好の時期です。中学3年生の時期とはそういう時期です。その会話がきっと将来、お子さんが生きていく指針になると思います。

③ 積極的に情報を得ましょう。高校に行き説明を聞きましょう。

「生徒のみなさんへ」でも書きましたが、高等学校などが企画をする入試説明会が大切な情報になると思います。雑誌や他人からの話だけで判断するのではなく、実際に訪問して気が付くことも多いはずです。（生徒との参加を勧めます）また、分からることは直接質問をすることができます。

中学校にも様々な情報が入ってきます。担任に連絡や相談をお願いします。共に考えていくことができればと思っています。

④ 金銭面について、支援制度があります。

公立・私立高等学校の授業料減免制度・実質無償化制度が実施されています。しかし、他に入学金や制服費、旅行費や副教材など必要な経費は学校ごとに決められています。

この費用に関しては学校によって違いますので、受験の前に調べるようお願いします。具体的な金額は、生徒募集要項などに載る学校が多いです。

他に国や県などが制度化している育英制度などもあります。必要な担任に相談をお願いします。

⑤ その他

「記載内容確認書（中学校生活の活動や欠席及び学習の記録）」という、高等学校に提出する調査書とほぼ同じ内容のものを、10月中旬に発行し、10月22日（水）から10月30日（木）までの三者面談時までに確認を行います。記載内容を確認していただき、付け加える内容や訂正、校外で得た資格などありましたら、担任に連絡をお願いします。

2学期終業式頃に渡す「記載内容確認書」は、公立高等学校に提出する調査書と同じ内容です。

◆学習の心がまえ◆

1. 生活リズムを整える

人生の基盤は、日常生活にあります。この基盤が崩れ落ちてしまえば、何をやっても成果が出にくくな�니다。特に生活リズムが崩れ落ちてしまうことで、気力がなくなったり、学習の効率が悪くなったり、イライラしたり、病気になったり、と良いことはありません。

毎日がダラダラと過ぎていき、授業にも身が入らないことになります。さらにやってないものだから気持ちだけ焦ってしまい、物や人に八つ当たりをしてしまう生徒もいます。どうせダメだ、といった投げやりな気持ちが生まれると、さらに生活リズムが崩れ、悪循環に陥ります。そうならないように、生活リズムを整えて、入試を迎えてもらいたいと思います。そのためのコツを紹介します。

第1のコツ・・・朝起きる時間と夜寝る時間を安定させる。

無理な夜更かしをしても、受験生の気分になった自己満足だけで実際あまり効果が上がっていないことの方が多いです。起きる、寝る時間を固定すると食事時間も一定になり、健康にも良い影響があります。

第2のコツ・・・テレビやゲーム、スマホなどに費やす時間を減らす。

息抜きやリラックスは必要なときもあります。その場合には、時間やルールを決めることです。誘惑に負けないように、勉強場所から遠ざける、保護者に預かってもらうなどの工夫も大切となります。

第3のコツ・・・ルーティーンワークにする。

昨日はご飯を食べて勉強をしてから風呂にしたけど、今日はお風呂の後にご飯を食べてから勉強しよう。…というように毎日違う流れで生活するよりも、多少時間差はあっても流れは同じであると生活リズムが整いやすくなります。

結局のところ、生活リズムが安定すれば、勉強の時間も固定され、それが習慣になります。勉強することが当たり前の生活になれば、合格に近づけることになります。日々の日常生活を大切にしてください。

2. 毎日の授業を大切に

毎日夜遅くまで勉強し、学校の宿題より塾の宿題を中心にして、学校の課題は出さない。授業中は寝てしまう。これでは学習に対する意識・意欲は低いと評価されるでしょうし、なかなか学力もつかないのでないでしょうか。

今、授業で学習していることを確実に身に付けていくことが第一で、それに1、2年生の復習を家庭学習で補っていくのが入試対策として最も効率が良いです。授業の内容は、単元テストや期末テストに向けても勉強しなければならないことなので、テスト勉強がそのまま受験勉強になるように組み込んでいくことが良いと思います。

また受験では、内申点として技能教科の評定も5教科と同じように扱われます。入試相談では9教科の成績を用いる高校も多くありますので、どの授業も「一生懸命」に取り組んでほしいと思います。

3. 家庭学習の定着を

お子様は、家庭学習に取り組んでいるでしょうか。中学で学習する内容はたくさんあります。授業では生徒たちに「わかる」までたどり着けるよう努力していますが、「十分できる」ようになるまでには時間が足りません。そこで、「わかった」ことを自分で繰り返し練習したり問題集で確認し定着させたりすることが必要になります。それが家庭学習です。1・2年生の内容が「わかつて」いる人も一通り確認するようにしていただきたいです。時間もかかりますから、早めに家庭学習の定着を図ることをお勧めいたします。特に、夏休みと冬休みの家庭での学習はとても大切なものです。

4. テストの活用

小テスト・単元テストと定期テスト、実力テストが行われます。テストの目的は3つあります。

第1に、自分の学力がどこまで定着したかを判断するためです。

第2に、どこが不十分であるかを知り、以降の自分の学習に生かすためです。点数だけではなく、間違えたところを次にできるようにすることです。それが実力アップの鍵です。模試などにチャレンジすることも良いと思います。

第3に、計画を立てて、それに沿って学習に取り組む力につけるためです。3年間分の学習に取り組むのに、無計画よりも計画があった方が、効率がよくなるものです。時間は限られています。

★おすすめのポイント（生徒へ）★

- ① 部活動では最後までやり抜き、悔いなく終える経験を積もう。
- ② 日頃から自律を意識した生活を送ろう。
- ③ 家庭での学習習慣をつけ、授業に集中して取り組もう。
- ④ 健康管理に留意しよう。
- ⑤ 検定試験にチャレンジしよう。
- ⑥ 行事では全力で燃えよう。
- ⑦ 学校での自分の役割を全うしよう。

◆進学について◆

高校選びは、人生のゴールインではありません。長い人生の旅路の中でのワンステップにしか過ぎません。将来のことを見据えて、高校選びをゴールとせず、考えていきましょう。

1. 高等学校への進学

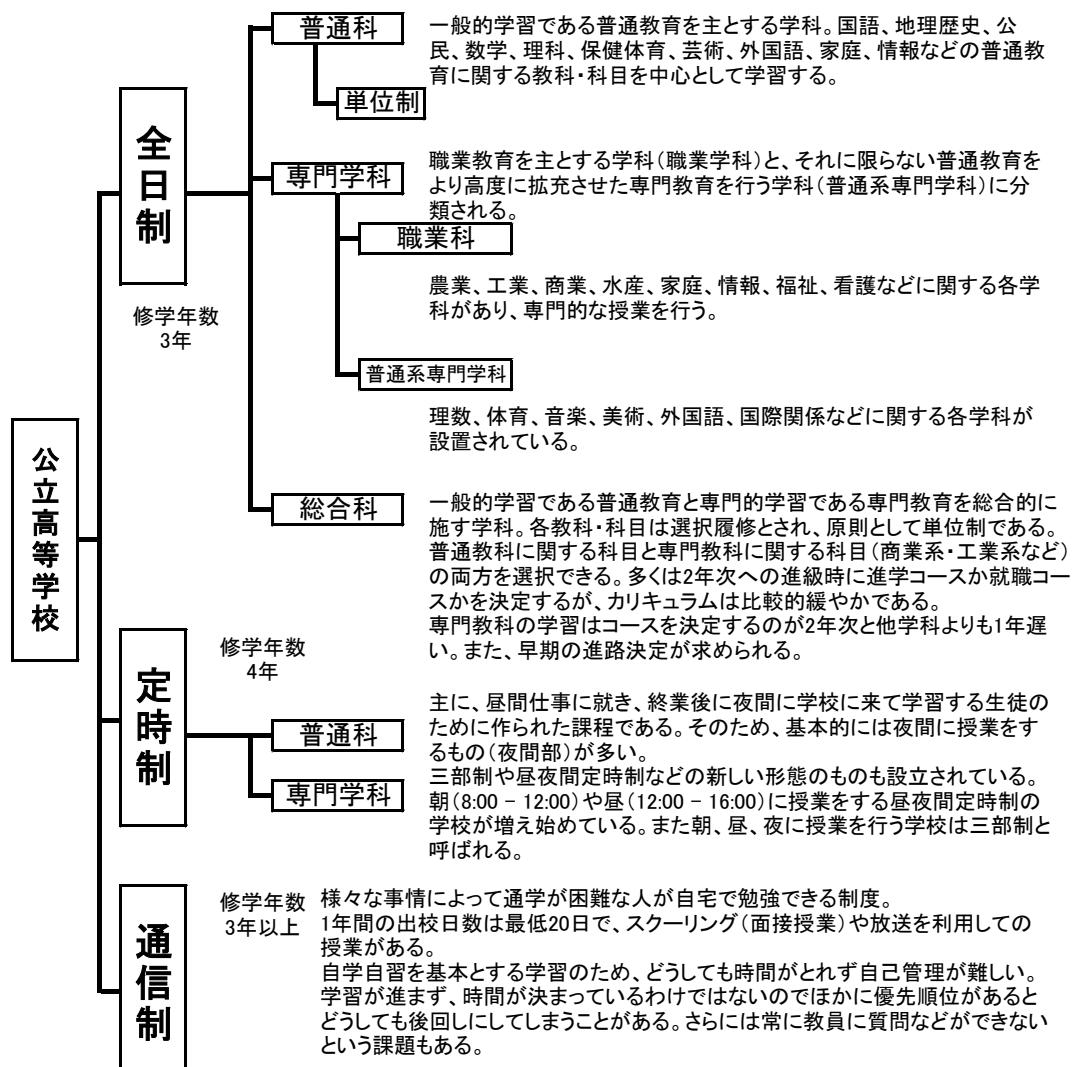
(1) 高校の種別と特徴

① 国立高等学校

共通の入試要項はなく、各校独自の受験を実施しています。したがって受験を希望する人は、1月頃に発表になる入学案内を自分で取り寄せが必要になってきます。

② 公立高等学校

県立高等学校と市立高等学校があります。入学金等の経費も私立に比べて安く、東葛飾地区には多くの学校が設立されており、選択しやすくなっています。また、高等学校等就学支援金制度により、保護者等の所得（年収約 910 万円未満）を対象に家庭での授業料負担が実質 0 円です。



※通信制の課程に在学する生徒を対象として学習支援を行なうサポート校もある。

また、これらの通信制の高校と提携した専門学校もある。

私立が多く、学校を2つ入学するタイプの学校もあり、金銭的にもよく確認をした方がよい。

a) 学区制について

- ・全日制・普通科 → 学区制

流山市の生徒が受検可能な地域は、**第2学区・第3学区・第4学区**です。

- ・全日制以外の課程（定時制・通信制）、および専門学科・総合学科 → 学区制限なし

（原則として、志願者が千葉県内に保護者と同居していること）

学区外や県外の公立高等学校を志願したい場合は、提出書類や申請が必要な場合もあるため
早めにご相談ください。学区となる高等学校については下記を参照してください。

b) 受検について（※隣接県協定については、P.19で説明。巻末資料あり。）

公立の高等学校は他県を含めて、入試日が違ったとしても1校しか受検はできません。志願した後に別の学校や学科に志願変更をすることは可能です。また、公立学校は日程的に1番最後の試験となりますので、原則として合格した後の入学辞退はできないとお考え下さい。

☆千葉県の学区制（流山市から通える学区）とそこにある市 - 全日制 普通科のみの制限です。

第2学区	市川市 船橋市 松戸市 習志野市 八千代市 浦安市
◎第3学区	流山市 野田市 柏市 我孫子市 鎌ヶ谷市
第4学区	成田市 佐倉市 四街道市 八街市 印西市 白井市 富里市

☆流山市の中学校から受検できる普通科・総合学科の公立高等学校（全日制）

柏市	東葛飾 県立柏 柏南 柏陵 柏中央 柏の葉 沼南 沼南高柳 市立柏
野田市	野田中央 関宿
流山市	流山おおたかの森 流山南 流山北
我孫子市	我孫子 我孫子東
鎌ヶ谷市	鎌ヶ谷 鎌ヶ谷西
松戸市	小金(総) 松戸国際 松戸六実 県立松戸 市立松戸 松戸向陽 松戸馬橋
市川市	国府台 国分 市川東 市川昂 市川南 行徳
浦安市	浦安 浦安南
船橋市	県立船橋 薬円台 船橋東 船橋啓明 船橋芝山 船橋二和 船橋法典 船橋豊富 船橋古和釜 船橋北 市立船橋
八千代市	八千代 八千代東 八千代西
習志野市・白井市	津田沼 實糸 市立習志野 白井
千葉市	幕張総合(総・看)
成田市・佐倉市	成田国際 成田北 佐倉 佐倉東 佐倉西
印西市・四街道市	印旛明誠 四街道
八街市・富里市	八街(総) 富里

☆通学可能な専門学科の公立高校高等学校

流山	園芸 商業・情報処理	幕張総合	看護
流山おおたかの森	国際コミュニケーション	柏の葉	情報理数
市川工業（全・定）	(全)機械 電気 建築 インテリア (定)工業	成田国際	国際教養 英語
柏	理数	佐倉東	調理国際 服飾デザイン
清水	機械 電気 食品化学 環境化学	市立千葉	理数
市立柏	スポーツ科学	船橋	理数
市立松戸	国際人文	市立船橋	商業 体育
千葉工業	電子機械 電気 情報技術 工業技術 理数工学	松戸向陽	福祉教養
市立船橋	商業 体育	松戸国際	国際教養
市立習志野	商業	薬円台	園芸
佐倉東	調理国際 服飾デザイン	八千代	家政 体育

③ 私立高等学校

まず考えるべきことは、その学校の「個性」です。各校とも独自の校訓・教育方針を持ち、それを実践しています。その高校に何を求めるのかをしっかりと考えて選択してもらいたいと思います。

公立に比べると授業料は高いですが、各高校を通じて学費軽減申請することにより、家庭での負担がいくらか軽減されます。

＜さまざまな特色＞

- (ア) 日常の生活指導をより丁寧に行ったり、英語の授業を多く取り入れたり、進学・就職指導に力を入れるなど、独自の工夫をしている学校が多くあります。
- (イ) 中高6年間を通した計画的な進学、就職指導を行っている学校があります。
- (ウ) 私立高校の中には男子校、女子校といった別学の学校も多くあります。男女別々の良さをいかした行事を行ったり、施設や設備の点でも重点的に拡充や改善を行ったりするなどの利点があります。ただ、最近は生徒数の減少のため男女別学から共学に変更する学校も増えている傾向にあります。
- (エ) キリスト教や仏教など独自の宗教理念に基づいた行事や授業を行っている学校があります。
- (オ) その他として、通学区域に制約がなく、公立には見られない施設や設備に優れたものがあり、大学付属の私立高校はその大学への進学に有利なところが多いようです。

(2) 課程の違い

① 全日制の課程

平日昼間に登校して授業を受けます。

② 定時制の課程

おおむね夕方5時頃～9時頃までの時間や、ある一定の時期にまとめて授業を受けることになります。なお、本校から通学可能な主な定時制学校は以下の通りです。

- ・千葉県立船橋高等学校（総合学科）
 - ・千葉県立東葛飾高等学校（普通科）
 - ・千葉県立松戸南高等学校（普通科、午前・午後・夜間の三部制）
 - ・千葉県立佐倉南高等学校（普通科、午前・午後・夜間の三部制）
- など

③ 通信制課程

登校日が少なく、自宅で勉強できる制度。様々な事情によって通学が困難な人を支える制度。

- ・千葉大宮高等学校（普通科・通信制）

私立高校通信制の学校の中には、サポート校を併設していることがあります。卒業するためには、レポート課題の提出や試験などを通して単位の取得が必要になります。自分のペースで学習できますが、自宅で一人で学習をすることはなかなか難しい面があります。

その補助となるのがサポート校ということです。サポート校≠通信制の高校です。通信制の高校と同時入学して、心身で悩みがちな生徒一人ひとりに寄り添って、支援してもらうことができます。中には、独自性のあるコース（美容、漫画、保育、eスポーツなど）を設置し、それを求めて通信制を選択する生徒も増えています。

(3) 学科の違い

① 普通科

一般教科の学習を中心に幅広い教養を身につけることを主な目標としています。したがって、国語・社会・数学・理科・保健体育・芸術・外国語・家庭の各教科を主に学習することになります。しかし近年、普通科の中にコース制を導入し、専門学科的な学習をさせる高校も増え始めています。他の学科に比べて男女とも大学や短大への進学者の比率が高くなっています。

（コース制の例）

- | | |
|----------|-----------|
| 東葛飾高等学校 | → 医歯薬コース |
| 我孫子高等学校 | → 教員基礎コース |
| 成田北高等学校 | → 医療コース |
| 柏市立柏高等学校 | → 国際教養クラス |
- など

② 専門学科

高校卒業後、すぐに実社会に出て専門的な仕事に従事したいという人や特定の教科や技能を専門的に深く勉強したいという人に適した学科といえます。公立高校においても学区制はなく全県どこでも受検可能です。本校から通学可能な専門学科設置の公立高校は以下のとおりです。

- a) 理数関係 船橋高校（理数科）・柏高校（理数科）・柏の葉高校（情報理数科）
- b) 外国語関係 成田国際高校（国際科）・松戸国際高校（国際教養科）
- 市立松戸高校（国際人文科）・市立稻毛高校（国際教養科）
- 流山おおたかの森高校（国際コミュニケーション科）
- c) 厚生関係 松戸向陽高校（福祉教養科）・幕張総合高校（看護科）
- d) 体育関係 市立船橋高校（体育科）・八千代高校（体育科）
- 市立柏高校（スポーツ科学科）
- e) 工業関係 市川工業高校（機械科・電気科・建築科・インテリア科）
- 清水高校（機械科・電気科・環境化学科）・成田西陵高校（環境建設科）
- f) 商業関係 市立船橋高校（商業科）・流山高校（商業・情報処理科）
- 成田西陵高校（情報科学科）・市立習志野高校（商業科）
- g) 農業園芸関係 流山高校（園芸科）・葉園台高校（園芸科）
- 成田西陵高校（農業土木科・生産流通科・生産技術科・生産科学科）
- 清水高校（食品化学科）
- h) 家庭関係 八千代高校（家政科）・千葉女子高校（家政科）
- 佐倉東高校（調理国際科・服飾デザイン科）
- i) 芸術関係 県立松戸高校（芸術科）
- j) 他にも工業・農業・商業・水産などの学科を設置する高校は、県内全域に多くあります。

③ 総合学科

普通科及び専門科目の双方にわたって設けられた多種多様な科目の中から、自分の興味関心により、主体的に履修科目が選択できることに大きな特色のある学科です。千葉県では、幕張総合高等学校、小金高等学校、八街高等学校、君津青葉高等学校、安房拓心高等学校に設置されています。

（4）県立特別支援学校高等部

社会自立や職業自立をめざす、県立の特別支援学校です。療育手帳を取得しているか、あるいは取得可能であると医師の診断を得ている生徒が受検、入学できます。

職業科には、園芸、工業、生活、福祉流通などの学科があり、内容によって、いくつかのコースに分かれて学習します。学校により学科やコースは異なります。公立高校内にある特別支援学校では、少人数の特性を生かし、2～3つのコースに分かれて学習します。

2. 高等学校以外への進学

中学校卒業後の進学先として、高等学校の他に次のような学校があります。いずれも、専門的な知識や技能を身につけることを目的として設置されています。

(1) 工業高等専門学校（高専）

工業高等専門学校は、中堅技術者養成を目的としたもので、5年間で徹底した技術教育を行い、短大卒業程度の実力を身に付けることができます。大学への編入制度もあり、中堅の技術者を志す者にとっては一つの選択肢になります。

(2) 専門・専修学校、各種学校

主に資格を取得することを目的としているのが専修学校、技術の取得を目的としているのが各種学校です。高校を卒業してから入学する専門学校という名称の方が多いですが、区別しないこともあります。中には高校卒業の資格が取れる学校もあります。

① 専門学校・専修学校

調理や自動車整備、美容、芸能などの実践的な技術を学び身に付けようとする学校です。高校ではありませんが、3年課程の学校の中には通信制高校との2校同時在籍をして、専門の授業を受けながら無理なく高校卒業資格を取得するカリキュラムを用意している学校が増えています。高等課程を持つ学校を高等専修学校、専門課程を持つ学校を専門学校ともいいます。高校と同じようにホームルームやクラブ活動をはじめ、修学旅行などの行事も行われています。

主な学校として、野田鎌田学園調理高等科（調理師コース、スイーツ・パンコース）および情報高等科（コンピュータ技術の習得）、KTS柏高等技術学園（自動車整備コース）、パリ総合美容専門学校柏校（総合美容科）などがあります。これら3校も高校卒業資格が取れます。

② 企業内高校

大手の企業の中には、自分の会社の社員を育成する目的で学校を併設しているところがあります。種類としては全日制の高等専修学校ですが、提携校の授業を受けて、3カ年の修了後には高校卒業資格が得られます。さらに大学への進学が可能な学校もあります。

特に他の高等専修学校とは、次のような点で大きな違いがあります。

ア 卒業後、その企業の系列の会社にほとんど全員が安定して就職できること

イ 一年生の時から奨学金、学習手当と呼ぶ給料やボーナスがもらえること

ウ 多くの学校では、寮生活を送ること

目的意識がはっきりしていない人には向きませんが、将来、中堅技術者として大手企業に就職したいと考える人には一つの魅力的な選択肢になるでしょう。ただし、近年は不況により、募集は厳しいことが予想されます。

主な学校として、日立工業専修学校高等課程・トヨタ工業技術学園高等部などがあります。

③ 文部科学省所管外学校

国立館山海上技術学校（千葉県館山市）や自衛隊高等工科学校（神奈川県横須賀市）などは、3カ年を修了すると高校卒業と同じ資格を得ることができます。卒業後は、海上技術学校ならば4級海技士資格を取得して海運業界や官公庁関係へ、自衛隊高等工科学校であれば自衛隊関係へ多く進みます。修了後には高校卒業の資格が得られます。さらに大学への進学が可能な学校もあります。

◆就職について◆

(1) 就職の心構え（職業観・勤労観・人生観をもって）

就職のためには、生徒自身の適性・能力・身体・家庭環境・興味等を考えに入れて、それにあった職種を見つけ出さなければなりません。また、同じ職種でもその事業所の内容・安定性・将来性も十分に検討した上で、どの会社に就職するかを決定しなければなりません。しかし、年々、中学卒業者の就職は厳しいものになっています。しっかりした心構えと意志を持って臨んでください。

(2) 職業安定所（ハローワーク）との面談

就職について、日本では一般に定年までひとつの会社で働くことが慣例になっていました。しかし、近年では転職する人も増えてきました。だからといって、気に入らなければすぐに転職というのでは、どこにいっても長続きしません。そのため、就職先の決定は慎重にやらなければなりません。そこで中学校では職業安定所の所員を招き、生徒と保護者・担任が一緒になって面接を行い、最近の就職状況や生徒の希望や適性を検討して、ふさわしい就職先を見つけるように努力したいと思います。また、縁故就職（知り合いや親戚の事業所への就職）の場合、職業安定所を通さずに話を進めがちになりますが、原則としてはどんな場合でも職業安定所を通しての就職活動を行っていくべきだと思います。何かトラブルがあった時には、公正な第三者として職業安定所が仲立ちをしてくれます。

(3) 働きながら学ぶ道

いろいろな事情で、働きながら学校に通うことを考えている生徒もいると思います。そのような人たちのために、定時制（夜間や三部制）高校や通信制（自宅学習）高校・企業内高校（企業内に設置されている高校）などがあります。

(4) その他

就職希望の場合は10月に入ると職業適性検査を受け、職業安定所に書類を提出することになります。進学希望の場合よりも、早め早めに考えを固めていくことになります。

★就職までの流れ★

① 担任へ相談	(早めに)
② 職業適性検査	10月～ 就職希望者、技術専門学校希望者対象。
③ 職場見学・説明会	10月～ 希望があれば行う。
④ 資料の配付	10月～ 就職希望者に配付する。
⑤ 職業相談票の作成	10月
⑥ ハローワークとの面接	10～11月
⑦ 応募書類の提出	11～12月
⑧ 入社試験	1月1日以降
⑨ 採用・不採用通知	1月1日以降
⑩ 就職・入社	3月下旬～4月

◆入学試験について◆

1. 公立高等学校の入学試験について

令和8年度 千葉県公立高等学校第一学年入学者選抜について

(1) 入試日程

出願準備：令和8年1月13日（火）から2月2日（月）の期間
出願：令和8年2月3日（火）から5日（木）の3日間
志願変更等：令和8年2月10日（水）及び12日（木）の2日間
学力検査：令和8年2月17日（火）及び18日（水）の2日間
追検査受付：令和8年2月20日（金）及び24日（火）の2日間
追検査：令和8年2月26日（木）の1日
合格発表：令和8年3月3日（火）午前9時
(第2次募集)
出願準備：令和8年3月3日（火）から3月5日（木）の期間
出願：令和8年3月6日（金）
志願変更等：令和8年3月9日（月）
学力検査：令和8年3月11日（水）
合格発表：令和8年3月13日（金）

(2) 入試内容（詳細の日程は、今年度の実施要項が発表されてからお知らせいたします。）

第1日：国語（50分）（聞き取り含む）・数学（50分）・英語（60分）（リスニング含む）
第2日：理科（50分）・社会（50分）・各高等学校が定める学校設定検査
※ 学校設定検査とは… 面接・集団討論・自己表現・作文・小論文・適性検査・学校独自問題・
その他の検査のうちから1つ以上を実施するもの。
※ 各教科100点

(3) 基本的選抜方法（選抜要項より抜粋）

一般入学者選抜は、
「調査書中の必修教科の評定の全学年の合計値及びその他の記載事項」
「学力検査の成績」
「学校設定検査の結果」等
を資料とし、それぞれを数値化し、合計した「総得点」を総合的に判定し選抜を行う。
※ 理数科や国際関係の学科では、理科や英語の得点の比重を高くしている学校もあります。
※ 選抜・評価方法は各高等学校がホームページ上で公開。（10月頃）

(4) 追検査

① 対象者

感染症罹患等のやむを得ない理由により本検査を全部又は一部受検することができなかった者。
(※ 追検査受検願・本検査を受検できなかった理由を証明する書類等が必要。)

② 検査日

令和8年2月26日（木）

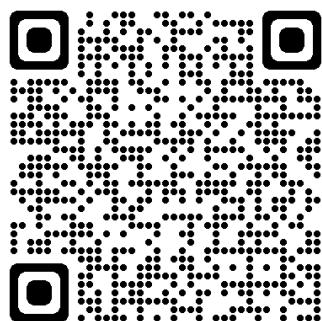
③ 検査内容

本検査に準じて実施される。（本検査とは別問題）

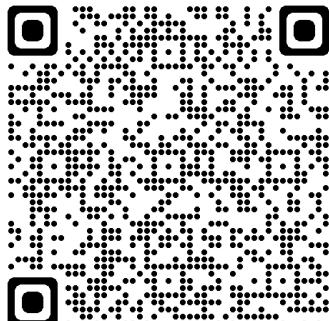
1日で国語・数学・英語・理科・社会・学校設定検査を実施。

④ 発表日

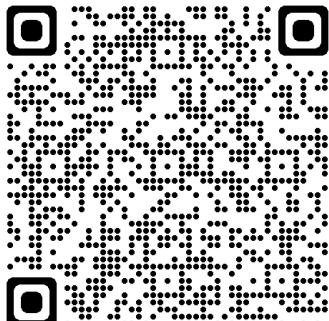
本検査の結果と併せて同じ日に発表。



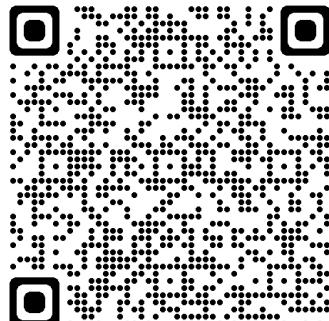
① 学区案内



② 第2学区の高校



③ 第3学区の高校



④ 第4学区の高校

○ 他の都道府県の公立高等学校について

保護者の転勤や転居などの事情により、他の都道府県の公立高等学校の受検を希望する人がいます。転居先の進学情報がつかみにくく、不安になると思いますが、ルールを守り、書類の提出や手続きなどをきちんと行えば、全ての都道府県の公立高等学校を受検することができます。しかし、他の都道府県の公立高等学校との併願を認めている自治体はありませんので、ご注意ください。

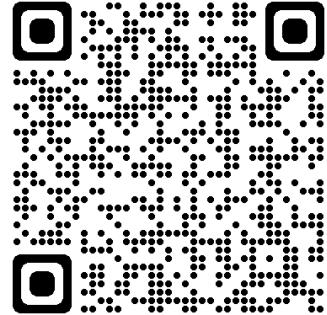
つまり、転居先の他県の公立高等学校を受検するならば、千葉県の公立高等学校は絶対に受検することができません。どの都道府県でも公立高等学校でありながら、受検のスケジュールや選抜方法、提出書類や手続きの方法が全く異なります。

他県のシステムについては、なかなか情報が入ってこないところがありますので、他の都道府県の公立高等学校を受検する可能性のある人は次のことを必ず進めておいてください。

各自で受検予定の都道府県の『令和8年度 公立高等学校入学予定者選抜試験実施要項』（7月～9月上旬にはできていると思われます）という冊子を2冊取り寄せてください。HPでも入手できます。各都道府県教育庁で手に入りますので、転居や転勤が判明するなど、受検の可能性があるとなった時点で入手をしてください。そして、2冊のうち1冊を家庭で保管、もう1冊を学校にお持ちください。

○ 隣接県協定（学区の特例）について

千葉県教育委員会と茨城県教育委員会、埼玉県教育委員会との間では、お互いの隣接学区内の公立高校に出願できます。以下の他県公立高等学校に関しては、千葉県公立高等学校を絶対に受検しないことを条件に志願することが可能です。



①埼玉県の公立高等学校

隣接県協定により以下の市町村の公立高等学校が志願することができます。

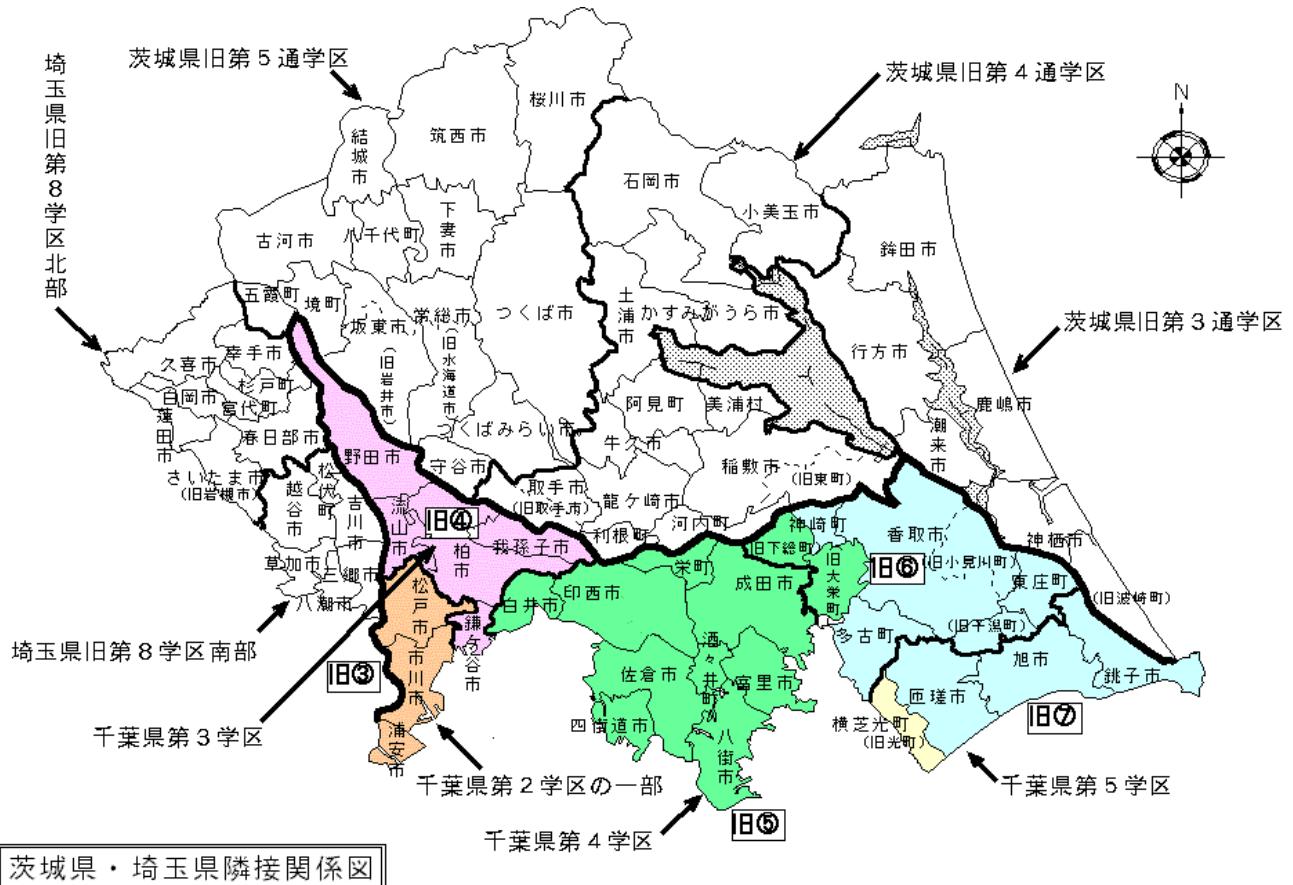
草加市 三郷市 八潮市 吉川市 越谷市 松伏町(※普通科・専門学科とともに) ※要確認

②茨城県の公立高等学校

流山市・野田市・柏市・我孫子市などは隣接県協定により、茨城県の公立高等学校に志願することが可能です。志願できる高等学校（学科）については確認が必要です。

③生徒数確保に伴う他県生徒を募集している公立高等学校

生徒数の減少から、他県の生徒を積極的に受け入れる公立高等学校があります。全寮制であり、学校によっては普通科ではなく、専門学科に限る場合もあり、詳細についてはそれぞれの高等学校の募集要項を必ず確認をしてください。



2. 私立高等学校の入学試験について

千葉県内私立高等学校の入学試験について

(1) 前期入試について

千葉県内の私立高等学校の場合、前期入試と後期入試があります。

しかし、公立高校入試の一本化に合わせて、現在は7割強の千葉県私立高校が前期入試のみとなっています。そして、千葉県内のほとんどの高校は、1/17あるいは1/18に設定する場合が多く、入試日が重なるケースが目立ちます。

その内容は学校によって様々です。詳しくは各私立高等学校の入試要項や入試説明会を確認してください。

また、前期入試では、推薦入試を取り入れている学校が多くあります。以下に、各推薦受験について説明してありますので、ご確認ください。

推薦とは・・・成績等が高校側が示す学力推薦基準を満たし、さらに中学校長が学業・人物ともに優秀で推薦に値すると判断した場合にのみ受験ができる制度。

入試相談によって受験の可否が決定する。

推薦受験ができた場合でも絶対合格というわけではない。しかし、一般試験よりも合格する可能性は高くなる。千葉県公立高校には、推薦制度はない。

① 単願推薦（専願推薦・A推薦）

受験する学校が第1希望であり、受験する学校の定める推薦基準を満たしている生徒が対象となります。試験は作文と面接のみの学校や学科試験を実施する学校とがあります。大半の私立高校で実施され、募集の割合は高校により違いがあります。合格した場合には、その学校に入学することが条件となります。

② 併願推薦（B推薦）

受験する学校の定める学力基準を超えており、第2希望以下の受験生に対して行われます。基準は単願推薦より厳しくなっており、一般受験よりかなり有利になります。

併願推薦としては、以下の場合があります。

（ア）公立高校を第1希望とし、その私立高校を第2希望とする場合

（イ）第1希望は公立、私立を問わないが、その学校を第2希望以下とする場合

③ 部活動推薦

部活動（運動部に限らず）において、中学校時代に実績を残し、高校の部活動顧問の推薦があり、高校入学後もその部活動を、懸命に続けることができる生徒が対象です。

④ 自己推薦

受験する学校が第1希望であるが、基準値に達していない場合や中学校からの推薦が得られない場合など、自分自身によって学校内外での諸活動をアピールし、それが認められれば推薦受験が可能となる場合があります。推薦という名称がつく受験方法で唯一、中学校の校長先生の推薦を必要としない制度です。

⑤ 単願切り替え合格

単願、つまり必ず入学するならば合格にするという制度のこと。合格発表時に通知され、一定期間内に手続きをしないと不合格になってしまいます。入学を決め、手続きをすることになり、その後の高校受験はできなくなる。少数の私立高校でこの制度を導入しています。

※ 前期入試は全ての高校で同様に行われているわけではありません。単願推薦のみ実施している学校や部活動推薦のみ実施している学校、単願推薦・併願推薦・部活動推薦のすべてを実施している学校もあります。また、推薦入試を一切実施せず、一般試験のみの学校も多くあります。

(2) 後期入試について

前期入試以外の入試がいわゆる後期入試と呼ばれるものです。

後期入試の中にも単願入試（第1希望）、併願入試があります。学校によっては単願受験者を有利に扱うところもありますし、まったく考慮しない学校もあります。それは事前に入試要項等に明記しています。前期入試を行う学校では、当然のことながら後期入試の募集定員の枠が少ないので、一般受験者には不利になることが予想されます。募集が若干名の学校もありました。

(3) 私立入試日程について（昨年度、参考）**他県私立高等学校の入学試験について**

私立高等学校の入試日程予定です。今年度の詳しい日程はHPなどで確認してください。

また、地域が変われば、しきみも変わります。**必ず募集要項を入手してご確認ください。**

出願が12月の地域・学校もあります。出願については、インターネットによる出願が主流となっています。ご家庭での操作となります。プリントできるご準備をお願いいたします。

今年度の入試日程予定	前期（推薦・一般）入試	後期（一般）入試
千葉県 私立高校	1月17日～	2月15日～
東京都 私立高校	1月22日～	2月10日～
茨城県 私立高校	1月 9日	1月15日～
埼玉県 私立高校	1月22日～	2月 1日～

(4) 私立高校への志望移動

国からの就学支援金や千葉県が設定した私立授業料減免制度の拡充により、数年前から私立高校を第一志望とする生徒が増えています。公立高校入試の一本化やコロナ感染拡大状況も拍車をかけました。

初めから私立単願で受験をする生徒に加え、併願で私立を押さえた上で、公立入試でチャレンジし不合格となるケースも増えています。その結果、私立高校の入学者数が定員を超過し、入学者を絞り込むために入試制度を見直す動きもあります。昨年と同じと思わず、きちんと情報を確認するようにしてください。

(5) 推薦入試を希望する場合

推薦で受験できる条件は、①受験校の推薦基準（学力基準等）を満たし、おおぐろの森中学校として②学校長が人物優秀で推薦に値する生徒だと判断することです。

推薦基準については各学校の募集要項などに記載されています。また、説明会などでも公開されているので、希望する学校について調べてください。

推薦制度を利用して受験しようとする場合、次の手続きを行います。

① 本人、保護者から推薦制度を利用する旨を、書類を用いて担任に申し出てください。

以下の「推薦願」は、三者面談時に希望者へお渡しいたします。

- ・単願推薦の場合…「単願推薦願」を11月下旬（予定）までに提出してください。
- ・併願推薦の場合…「併願推薦願」を11月下旬（予定）までに提出してください。

② 自己推薦については、三者面談を通して担任が本人、保護者に確認します。

※ 慎重を要する件なので、三者面談や進路希望調査、推薦願などの書類によって、推薦の意思を確認していきます。提出期限を過ぎても提出されない場合、推薦入試を受験する意思がないとみなします。

<推薦受験への流れ> 例

- ① 推薦願を中学校へ提出（おおぐろの森中）
- ② 校内進路検討会での許可（おおぐろの森中）
- ③ 入試相談での許可（受験を希望する私立高校）
- ④ 出願手続き（WEBまたは願書）
- ⑤ 受験料の振込
- ⑥ 入学願書の印刷（自宅のプリンター、またはコンビニのプリンターなどを利用）
- ⑦ 書類の郵送（願書・推薦書・調査書など）

(推薦入試の合否目安)

推薦入試の合否は、高校ごとに異なります。一般的に、入試相談がある高校では、入試相談で推薦受験を許可された受験生徒の合格率は、一般入試で受験するよりも高くなる傾向があります。しかし、学科試験で相応の点数が取れなかったり、面接で学校側が求める生徒像とかけ離れていると評価されてしまったりした場合には、不合格になることもあります。推薦入試では合格の可能性が高くなる所が多いのですが、100%合格するとは言い切れないで注意してください。

また、推薦入試と一般入試を両方実施している高校では、募集比率が「10:0」や「9:1」、「8:2」などの高校がほとんどであり、募集定員の面から見ても推薦入試の方が合格しやすいことがわかります。一般入試での合格は非常に狭き門であると言えます。

◆学力試験以外の試験について◆

～「学力試験ではわからない部分を見よう」という目的～

(1) 面接（個人面接・グループ面接など）

学習活動や学校生活に対する意欲・関心、あるいは一般常識を問う検査です。

私立・公立にかかわらず、面接試験は多くの学校で実施されています。各学校が面接をする目的は、受験生の人柄を見ることです。「面接のときだけ頑張れば、どうにかなるんじゃないかな」と考える人もいるでしょうが、面接を甘く見てはいけません。面接官は、何百人、何千人もの受験生に接してきています。その場しのぎの取り繕った態度や言葉遣いなどは、わかるものです。

では、どうするか。方法は一つです。日頃から自律を意識した生活を送るのみです。T P Oに応じた生活態度や言葉遣いです。それ以外にも、言葉だけでなく、相手に好感をもってもらえる人としての魅力的な人物になる努力も大切になると思います。

(2) 集団討論

複数の受検者に、同一のテーマを与えて自由に討論させます。

(3) 自己表現

決められた時間内において、あらかじめ受検者が申告するなどした実施形態によって発表をさせる検査です。（例）実技検査や、作文、自己P Rなど。

(4) 作文

指示された題名のもとに、（自由に書かせることを含む）文書を作成させる検査です。

(5) 小論文

ある文章や資料等を与え、その全体又は一部について問い合わせ、受検者のものの考え方等を見る検査です。

(6) 適性検査

専門学科の特色に応じて行う実技等の検査で、運動能力に関する検査、各学校が指定する実施形態によって行う検査です。

(7) 学校独自問題

基礎・基本の定着を見る問題、思考力・応用力を見る問題又は教科横断的な総合問題による検査です。

(8) その他の検査

上記以外で、あらかじめ学校が示した方法による検査です。

（例）県が作成する思考力を問う問題、集団に課題を与えて、活動を観察する検査（集団適性検査）

＜作文・小論文のテーマ例＞

近年、作文・小論文形式の入試を取り入れる学校が多くなってきています。

これは受験生の「個性」・「論理的思考力」を知るために実施されます。相手に伝わるようにまとめる力（表現力）なども見られています。

「中学校で最も努力し、頑張ったこと」

「高校で何を学び、将来の希望はどのように考えているか」

「高校生活で打ち込みたいもの」、「高校に入学してやりたいこと」

「国際社会に生きる人間としてどのような高校生活を送れば良いか」

「理想的な学校とは」、「中学校生活を振り返って」、「高校生活で望むこと」、

「私の体験した感動について」、「本校を希望した理由」、「私の可能性」

「最近1番心に残ったこと」、「中学校の部活動の思い出」、「私を変えた言葉」、「自律とは」

「男性の育児休業の取得義務化をめぐる動きに関する記事」、「男性が育児休業を取得しなかった理由」、「男性の育児休業の取得義務化に対する企業向け調査に関する記事」の三つの資料を参照し、「男性の育児休業取得を義務化すべきか、義務化すべきでないか」について、自分の考えを述べる。

「失敗をするということに人間味がある。」という言葉がある。自分の体験を例に挙げ、この言葉についてのあなたの考えを述べよ。

あなたが本校を志望する理由を述べなさい。また、あなたは志望する学科でどのようなことを学び、どのような夢を叶（かな）えたいと考えていますか。それぞれ具体的に書きなさい。

問1

SDGsの目標の相互の関連性を踏まえた上で、目標の一つである「1 飢餓をゼロに」という目標に対して「農地を増やす」という解決策を考えるとき、これにより良い影響が及ぶと考えられる目標と、悪い影響が及ぶと考えられる目標をそれぞれ一つずつ示し、その理由を説明する。

小問1

図2、3を踏まえて、日本が世界をリードしてその取り組みを発信できる目標を示し、その理由と具体的な取り組みについて説明する。

◆学校説明会・体験入学などへの参加を◆

夏休み前後から11月にかけて、受験生（および保護者）対象の体験入学や学校説明会が各高校で行われます。自分の進路決定のための大切な情報収集の場となりますので、早めに予定を立て、できるだけ多くの学校を見学できるようにしてもらいたいと思います。

ただし、要申込の学校への予約を行った場合、必ず参加してください。やむを得ず欠席する場合は、必ず訪問先の学校に連絡を入れてください。

(1) 高校訪問時のポイント

- ① 身なりや持ち物を確認します。その場に適切な服装を選択します。ビジネスマナーを考えます。
(着こなし方、髪型、ベルト、靴下、爪など) (身分証、交通費、上履き、時計、筆記用具など)
- ② 携帯電話を持参する場合は、学校内に入る時に必ず着信音が鳴らないように設定します。
(説明会や体験学習の最中に着信音が鳴ることは、非常に失礼な行為です。)
- ③ 公共の交通機関を利用する。実際に上下校することを想定して、同じ交通手段で行くことを推奨します。(出願や入試当日のリハーサルも兼ねて、必ず利用しておくことが良いです。)
- ④ できるだけ生徒と保護者で参加します。(生徒には見つけられない視点で見ることができます。)
- ⑤ 普段通りにTPOやマナーを考えて参加します。
- ⑥ 在校生が活動中の場合もあるため、活動の妨げにならないように注意します。
- ⑦ 学校説明会や体験入学の開催日以外で学校内を見学したい場合は、まず担任に相談します。許可された場合、事前に訪問予定の学校に電話連絡をして許可をもらってから行きます。
- ⑧ 見学先の学校へ着いたら必ず受付を通り、挨拶します。
(特に指示がない場合は事務室の方に声をかけます。中学校名と名前を名乗り、用件を伝えます。説明会の場所によっては、体育館の入口などに受付が設置されている場合もあります。)
- ⑨ 終了後は、丁寧に挨拶をし、感謝の気持ちを伝えることを忘れないようにします。
- ⑩ その日に得た情報等は忘れないうちに記録します。「高校見学記録用紙」にまとめ、担任に提出します。

個人で行く場合でも、おおぐろの森中の生徒であるという「プライド・ブランド」のことを念頭に置いて行動すること。高校の側は、生徒個人の名前と共に「おおぐろの森中学校の生徒」として見ています。自分だけでなく、「おおぐろの森中の将来」も背負っていることを忘れずに。

(2) 高校説明会、体験入学などの参加申し込み方法

高校説明会、体験入学に参加する場合、高校によって申し込み方法が違います。参加申し込みには、次の3つのタイプがあります。

- ① 中学校で参加生徒や人数をまとめて、予約の申し込みをする。
- ② 生徒個人で予約の申し込みをする。
- ③ 事前予約の申し込みが必要ない。

興味・関心のある学校については積極的に自分で調べて、確実に参加できるようにしましょう。